

▼ルジオミール錠 [内]

【重要度】 【一般製剤名】 マプロチリン塩酸塩 maprotiline hydrochloride 【分類】 四環系抗うつ剤

【単位】 ▼10mg・▼25mg・▼50mg/錠

【常用量】 30～75mg/日

【用法】 分1～3 [分1の場合は夕食後あるいは就寝前]

【透析患者への投与方法】 不明 (3) 【その他の報告】 おそらく減量の必要はない (5)

【保存期 CKD 患者への投与方法】 減量の必要なし (3)

【特徴】 四環系抗うつ薬で、神経終末へのカテコラミン取り込み阻害作用を有する。アニマルモデルではセロトニンの取り込みに対しては阻害せず、中枢性の抗コリン作用が弱いことが示されている。

【主な副作用・毒性】 悪性症候群、てんかん発作、SJS・TEN、横紋筋融解症、間質性肺炎、肝障害、血圧上昇・下降、心ブロック、抗コリン性の副作用など

【吸収】 k_a : 0.34/hr, 吸収ラグタイム 1.3hr (Alkalay D, et al: Clin Pharmacol Ther 27: 697-703, 1980)

【F】 約 50% (Hrdina PD, et al: Psychopharmacology 70: 29-34, 1980) 66～70% (Maguire KP, et al: Eur J Clin Pharmacol 18: 249-54, 1980)

【 t_{max} 】 8～24hr (Alkalay D, et al: Clin Pharmacol Ther 27: 697-703, 1980)

【代謝】 CYP2D6 により代謝される (1) 主代謝物はグルクロン酸抱合体で、副代謝物は N-脱メチル化体および側鎖環の水酸化体など 12 種が同定 (1) CYP2D6 の PM は EM の C_{max} 2.7 倍, AUC 3.5 倍大きい (Firkusny L, et al: Br J Clin Pharmacol 37: 383-8, 1994)

【排泄】 ほとんど代謝物として尿中に回収される (1) 【CL/F】 14L/hr (Alkalay D, et al: Clin Pharmacol Ther 27: 697-703, 1980)

【 $t_{1/2}$ 】 平均 31.5hr [範囲 20.6-51.8hr] (Hrdina PD, et al: Psychopharmacology 70: 29-34, 1980) 個人差が大きく 19～73hr の範囲で 25mg 投与時の平均は 46hr, 75mg 投与時の平均は 45hr (1) 58hr (Alkalay D, et al: Clin Pharmacol Ther 27: 697-703, 1980)

【蛋白結合率】 90% [透析患者でも同じ] (Lynn K, et al: Eur J Clin Pharmacol 19: 73-7, 1981)

【Vd】 1000L/man (Alkalay D, et al: Clin Pharmacol Ther 27: 697-703, 1980)

【MW】 313.86

【透析性】 透析されないとされる (5)

【主な臨床報告】 「喉がしめつけられる感じ」は、うつ病の症状の一つであり、マプロチリンにより 67% の例で改善を認めた (山田昌次, 他: 耳鼻咽喉科臨床 (Suppl 57): 231-4, 1992)

【更新日】 20170123

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。